

糸魚川市議会と市民との意見交換会実施報告書

開催日時	令和元年8月23日 午後4時30分から午後6時まで	
申込者	上越漁業協同組合	
開催場所	漁業体験学習施設 中瀬館 糸魚川市大字能生小泊 7567 番地 7	
対応委員会	建設産業常任委員会	
出席議員	議長	中村 実
	委員	田中立一委員長、滝川正義副委員長、平澤惣一郎、新保峰孝、 斉木 勇、渡辺重雄、五十嵐健一郎
	委員外議員	山本 剛、保坂 悟、吉岡静夫
	記録者	田中立一、滝川正義
参加市民	18人	
意見交換内容	案件	水産業について
	<p>【趣旨】 上越漁業協同組合（以下漁協）は筒石、小泊（能生）、鬼伏、浦本、糸魚川、青海の各漁港で仕事（漁）をし、加工や販売にも力を入れ、全国的にも頑張った活動をしている。しかし魚価や漁獲量、組合員数の減少と担い手、施設の老朽化など課題も多く、5年後には合併の話もある。</p> <p>意見交換会を通じて現状と課題を共有し、協力関係を築きたい。</p> <p>【議題】 （1）市内水産業の将来展望及び他産業との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組合運営については、執行部が考えるのではなく、組合員が考える組合活動を目指している。 ・漁業者の減少、漁獲量の減少という中で、加工分野への進出により安定経営にもっていきたい。また、この加工分野については若手が主体の加工企画委員会で知恵を絞ってもらっている。 ・魚を食べたい観光客を増やしてもらいたいが、地元の魚をPRしている飲食店や宿が少ない。地元のお店で率先して地魚を使ってもらい、ブランド化してもらいたい。270種類の魚が水揚げされ、川ミネラルが豊富なため味も優れており、アサバやメギスを使った学校給食では、味に敏感な子供たちの評価も高い。 ・5年前から「ハマプラン」をつくり（現在は第2期）、漁業振興に取り組んでいる。主なものに加工事業の着手、学校給食、福祉施設への地魚の提供、市場での見学台の設置、漁船の省エネ化、新規就業者への支援、サザエファームの実施などがある。 ・「ハマプラン」の作成には外部のコンサルタントを入れず、また市の補助金も 	

入っていない。加工企画委員会を主体に作成・実施している。

- ・新潟市の事業者から水揚げの半分を引き取りたいという申し出があるが、地元で消費されなくなる懸念がある。商工会経由で地元飲食店での利活用を訴えているが、なかなかうまくいかない。「買参権」を購入すれば、手軽に魚を購入でき、配達もするのだが、あまり知られておらず残念だ。

- ・「なりわいネットワーク」に参加し、デパートへの干物の販売、かまぼこ業者への材料提供、ゴルフ場でのメギスの唐揚げの提供などを行っている。

- ・漁業の6次産業化については、当漁協のベニズワイガニでの取り組みは農協よりも早く、群馬県などへ出かけ、宣伝、販売を行っている。県外の農協や道の駅とコラボしているのは当組合だけだと思っている。また、魚には焼く、煮る、刺身、フライなど多様な料理の仕方があるが、この食の多様性を減じてでも加工製品化を目指すかといえ、少し悩むところである。今のところ、一次加工プラスアルファで留めている。

- ・魚料理を主にしたまちおこしも研究したが、手を上げる人もいなかったのであきらめた。地元の居酒屋の調理レベルは高いので、そこで地魚を使ってもらえれば、十分魚料理によるまちおこしになると思う。

- ・漁業者にとっては魚さえ獲ってくれば大丈夫なんだという状況をつくるのが我々の仕事だと思っている。また、他業種と横の連携が密でないのが悩みでもある。漁業だけが伸びれば良いとは考えていない。地域と一緒に伸びることを目指している。

- ・後継者については毎年、高校から2～3人の就職希望者が来るが、漁業者としての適性があるかどうかを漁協で見極めてから就職をあっせんしている。

(2) 道路工事の廃土による公有水面の埋め立てについて

- ・某大学からノドグロの完全養殖をここでやりたいという提案があるが、この沖では波や水質の課題があり、海面養殖は無理だと思う。仮に沿岸で埋め立てが実現するならば、その埋立地での陸上養殖には適していると思う。

(3) その他意見要望

- ・川の増水のたびに河川のごみが海へ流れ出てくる。そのごみの始末を漁業者が行っているが、この海面の保護に対する理解、支援が少ないと感じる。

- ・年間を通じての魚価の安定のための大きな急速冷凍設備が必要（今年はタイが豊漁だったが氷がなくて困った）。

- ・ブランドの確立（安全・安心を誇れる）のためにも地元消費が大事。

- ・筒石の船小屋はどこにもない貴重な財産、観光としても売り込める。

- ・新規就労（特に若い人）するには長い時間必要。

- ・新造船も負担大きく国県の補助は期間が短い（長くして）。

【委員から】

- ・頑張っている取組で随分表彰もされているその内容について
- ・6次産業化、加工などの取組について
- ・他産業との連携状況について など質問が出された。

【後記】

- ・地元漁業の現状について、丁寧な説明もあり、漁場条件の厳しさにもかかわらず、地元漁業の可能性、優位性を十分理解できた。また、単に漁業だけではなく、地域の振興と一体となった漁業振興に取り組む姿勢を理解できた。
- ・課題としては、懇談の中で再三発言があったが、地元飲食業との連携が課題としてある。この点については、機会を見つけ、飲食業者、流通業者をはじめとした消費者側との意見交換が必要と考える。
- ・新規市場の開拓には積極的に取り組まれており、ノウハウを積んでいることがうかがえた。プランづくりにはコンサルタントが関わっていないが、販路の拡大にはマーケティングの専門家の活用が考えられる。
- ・また、河川のごみの課題もあったが、環境政策の面からも検討が必要な課題と考える。

以上